

市民一人当たり
使ったお金は
48万5,756円
でした。

※金額は歳出決算額を、平成30年1月1日現在の人口126,368人で除して算出したものです。

◎財産と市債借入の状況

区分	平成29年度末現在高	
土地	3,667ha	
(うち市有林)	(2,011ha)	
建物	908,200㎡	
計	241億4,302万円	
基金	財政調整基金	98億9,879万円
	減債基金	18億8,694万円
	特定建設事業基金	24億8,352万円
	その他の基金	98億7,377万円
有価証券	2億3,150万円	
※市債	665億 388万円	

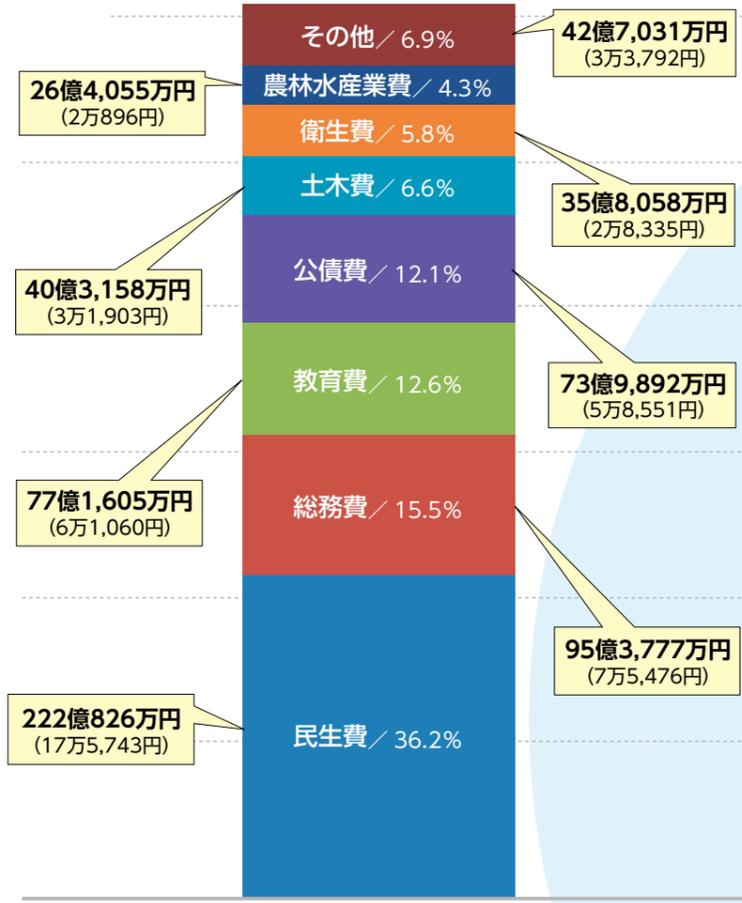
(企業会計を除く)



市債

霧島市の財政事情を公表します。

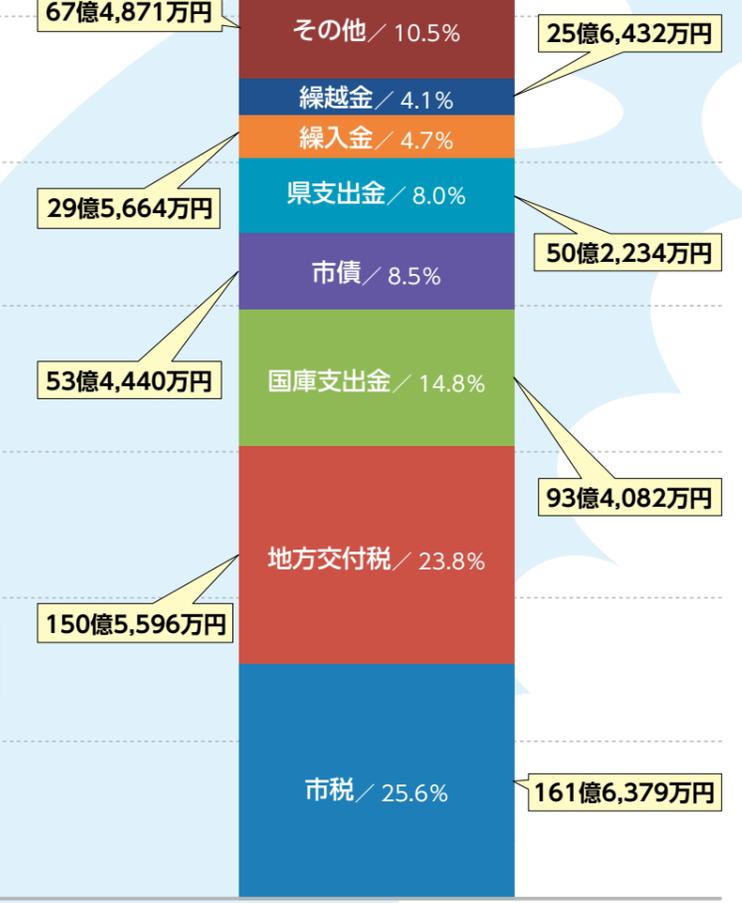
歳出
613億8,402万円
()内は市民一人当たりの金額



【用語説明】

民生費 高齢者や障がい者、児童の福祉推進などに使われた費用
総務費 総務人事管理、財産管理、企画調整、地域振興、税務事務などに使われた費用
教育費 公立学校の管理運営や施設整備、生涯学習の推進などに使われた費用
公債費 これまでの公共事業などの財源として借り入れたお金の返済に使われた費用
土木費 道路や公園、公営住宅などの整備に使われた費用
衛生費 ごみ、し尿の処理や健康増進事業などに使われた費用
農林水産業費 農業、林業、畜産業、水産業などの振興に使われた費用
その他 消防費、災害復旧事業費、議会費、労働費、商工費、公営企業会計への諸支支出金

歳入
631億9,698万円



【用語説明】

市税 市民税や固定資産税など市に納められた税金
地方交付税 地方公共団体が等しく行政サービスを提供できるよう、一定の基準により国から自治体に配分された税金
国庫支出金 市が行う特定の事業に対して、国が支出したお金
市債 市が行う公共事業などの財源として、財政負担の平準化、世代間の負担の公平などを図るため、国などから借りたお金
県支出金 市が行う特定の事業に対して、県が支出したお金
繰入金 基金(市の貯金)や特別会計などから繰り入れられたお金
繰越金 前年度から繰り越されたお金
その他 地方消費税交付金、使用料及び手数料、諸収入、地方譲与税、分担金及び負担金、財産収入、寄附金として納められたお金など

皆 さんは給料などの収入額と、食費・光熱水費・教育費などの支出額を計算しながら家計をやりくりしていると思います。

霧島市の財政でも同じように、1年間に入ってくる収入(歳入)と、どの仕事にいくらかお金を使うか(歳出)を見積もり、計画を立てて運営しています。このようなお金の計画を見積もったものを「予

算「予算に基づいてやりくりした結果を「決算」と呼んでいます。

特定の目的(国民健康保険、下水道事業など)がある仕事では、お金の出し入れを明確にするために財布を分けて管理する必要があります。それぞれの財布を「会計」と呼びます。会計には、福祉・教育・道路整備など皆さんの生活に広く関わる「一般会計」と、目的

ごとに財布を分ける「特別会計」、さらに地方公営企業法を適用する3つの「企業会計」があります。これらの会計の決算を見ると、市の「会計(財政)事情」が分かる仕組みになっています。

そのため、市では地方自治法と条例に基づき毎年11月、前年度決算と、9月末時点における現年度の財政事情を公表しています。

霧 島市の平成29年度の一般会計決算は、歳入が前年度に対して2.7%増の総額631億9698万円、歳出が前年度に対して4.1%増の総額613億8402万円となりました。歳入から歳出を差し引いた形式収支は18億1296万円の黒字、さらに翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支(決算剰余)は15億537万円の黒字となりました。決算剰余は翌年度以降に、積み立てや各種事業の財源に活用します。

一般会計で管理する財産には土地・建物の他、貯金にあたる「基金」があります。年度間の財源調整や特定の目的のための資金積立、運用を行っています。

年度間の財源調整には、借金である「市債」を発行する方法もあります。長期間利用する施設の建設のため、次世代にも平等に費用を負担してもらおうような場合に有効な手段で、後の返済が大きな負担とならないよう計画的な発行に努めており、近年は残高が減少してきています。

まちの家計簿
霧島市の財政事情を公表します。

平成30年度上半期(9月30日現在)の財政状況

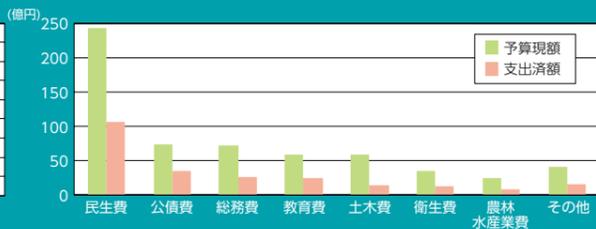
ここでは今年度上半期の財政状況をお知らせします。9月30日現在の一般会計予算現額576億532万円に対し、収入率が51.9%、執行率が38.8%となっています。

◎一般会計(歳入)

	予算現額	収入済額	予算構成比	収入率
市 税	154億 45万円	94億6,530万円	26.7%	61.5%
地方交付税	132億5,000万円	97億4,589万円	23.0%	73.6%
国庫支出金	92億5,097万円	43億3,962万円	16.1%	46.9%
県支出金	51億 480万円	10億3,029万円	8.9%	20.2%
市 債	40億3,600万円	0円	7.0%	0.0%
繰入金	36億4,391万円	7億1,272万円	6.3%	19.6%
地方消費税交付金	22億5,000万円	13億3,939万円	3.9%	59.5%
その他	46億6,919万円	32億6,772万円	8.1%	70.0%
歳入合計	576億 532万円	299億 93万円	100.0%	51.9%

◎一般会計(歳出)

	予算現額	支出済額	予算構成比	執行率
民生費	231億9,480万円	100億7,467万円	40.3%	43.4%
公債費	69億9,169万円	33億 215万円	12.1%	47.2%
総務費	68億7,452万円	24億1,625万円	11.9%	35.1%
教育費	55億6,549万円	22億 803万円	9.7%	39.7%
土木費	55億5,782万円	12億 756万円	9.6%	21.7%
衛生費	32億8,631万円	10億3,294万円	5.7%	31.4%
農林水産業費	22億8,401万円	7億3,363万円	4.0%	32.1%
その他	38億5,068万円	13億9,626万円	6.7%	36.3%
歳出合計	576億 532万円	223億7,149万円	100.0%	38.8%



◎特別会計

会 計 名	予算現額	歳 入		歳 出	
		収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険	153億4,687万円	67億8,857万円	44.2%	67億1,301万円	43.7%
後期高齢者医療	13億6,054万円	4億2,015万円	30.9%	4億1,801万円	30.7%
介護保険	109億1,610万円	53億1,502万円	48.7%	44億8,258万円	41.1%
交通災害共済事業	1,779万円	1,042万円	58.6%	322万円	18.1%
下水道事業	21億5,490万円	2億6,034万円	12.1%	5億5,172万円	25.6%
温泉供給	6,901万円	3,526万円	51.1%	2,432万円	35.2%

※収入済額が支出済額に対して不足する額は、他会計からの繰替運用により措置しています。

◎財産と市債借入の状況(企業会計を除く)

区 分	現在高	一人当たり現在高
土 地 (うち市有林)	3,671ha (2,019ha)	0.029ha (0.016ha)
建 物	906,485㎡	7㎡
基 金	266億 587万円	211,342円
内 積立基金	236億5,700万円	187,918円
内 其他の基金	29億4,887万円	23,424円
有価証券	2億3,150万円	1,839円
市 債	631億5,668万円	501,681円

※一人当たり現在高は、同日現在の住民基本台帳人口125,890人で除して算出したものです。

◎企業会計

会 計 名		収 益 的			資 本 的		
		収入	収入率	支出 執行率	収入	収入率	支出 執行率
水 道 事 業	予算額	23億8,993万円		18億9,587万円	300万円		14億 795万円
	収入済額または執行済額	9億1,813万円	38.4%	3億3,475万円	1万円	0.3%	1億9,687万円
工業用水道事業	予算額	2,522万円		2,522万円	2,055万円		2,240万円
	収入済額または執行済額	224万円	8.9%	210万円	0円	-	50万円
病 院 事 業	予算額	56億6,085万円		56億 363万円	0円		3億1,060万円
	収入済額または執行済額	26億 145万円	46.0%	23億1,816万円	0円	-	432万円

※資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、損益勘定留保資金・利益剰余金などで補てんしています。



過去の財政事情はホームページに掲載しています

霧 島市では、年度ごとの「まちな家計」の収支を保ちながら、将来にわたり持続的な財政運営ができるよう取り組んできました。今後とも既にある事業の効果や効率などを常に検証し、その上で、内容を徹底的に見直したり、限られた財源を重点的に配分し有効活用したりして、節減・合理化の取り組みを進めます。これからも市民の皆さんが安心して暮らすことができるよう、身の丈に合った健全な財政運営に努めていきます。

問 財政課 ☎(6)0917

◎特別会計

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引
国民健康保険特別会計	172億4,580万円	176億4,197万円	▲3億9,617万円
後期高齢者医療特別会計	13億6,211万円	13億5,455万円	756万円
介護保険特別会計	108億2,864万円	106億7,794万円	1億5,070万円
交通災害共済事業特別会計	2,067万円	1,343万円	724万円
下水道事業特別会計	20億2,895万円	19億4,534万円	8,361万円
温泉供給特別会計	7,217万円	6,619万円	598万円
計	315億5,834万円	316億9,942万円	▲1億4,108万円

霧 島市には、6つの特別会計と3つの企業会計があります。そのうち国民健康保険特別会計は、一人当たりの医療費が伸び続けている影響で歳出が歳入を上回っています。不足した分は、翌年度の歳入を繰り上げる繰上充用で対応しています。

◎企業会計

会 計 名	収益的収入および支出		資本的収入および支出	
	収入	支出	収入	支出
水 道 事 業	24億 533万円	17億5,874万円	300万円	14億8,527万円
工業用水道事業	2,741万円	2,501万円	2,880万円	3,040万円
病 院 事 業	52億 660万円	50億6,905万円	0円	4億9,672万円
計	76億3,934万円	68億5,280万円	3,180万円	20億1,239万円

※資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、損益勘定留保資金、利益剰余金などで補てんしています。

市 のお金が足りているか「借金をしすぎているか」など、市の財政が安全かどうかを判断する客観的な物差しとして、各種指標があります。例えば、削減が難しい義務的経費などの経常的な支出が占める割合を示す「経常収支比率」は、前年度に対して1.5ポイント上昇しており、歳出の自由度が若干減少したと言えます。国が法の中で定めている「健全化判断比率」関係では、財政規模に占める借入金返済額の割合を示す「実質公債費比率」は前年度に対して0.7ポイント改善し8.1%となりました。一般会計と公営企業を含む全会計の実質赤字率に関する比率や、将来の実質的な財政負担の大きさを示す比率はいずれも、国が健全化を促す基準を下回っています。このことから、本市はおおむね健全な財政運営であるということが言えます。

【用語説明】

- 1 財政力指数** 地方交付税法に基づき算出した支出に対する収入の割合を指標化したものです(3年間の平均値)。一般的に「1」に近いほど、さらに「1」を超えるほど財政力が強いとされます。
- 2 経常収支比率** 義務的経費などの削減が難しい経費がどの程度あるかを指標化したものです。比率が低いほど、お金の使い道に自由度があるとされています。
- 3 実質赤字比率** 一般会計などの財政規模に対する実質赤字額の比率です。(早期健全化基準:11.64%)
- 4 連結実質赤字比率** 全会計を対象とした、財政規模に対する実質赤字額や資金の不足額の比率です。(早期健全化基準:16.64%)
- 5 実質公債費比率** 財政規模に対する借入金返済額などの比率(3年間の平均値)です。(早期健全化基準:25%)
- 6 将来負担比率** 一般会計などの借入金(地方債)や将来支払っていく可能性がある負担などの現時点での残高が財政規模に占める比率です。(早期健全化基準:350%)
- 7 資金不足比率** 公営企業会計ごとの資金不足額が事業規模に占める比率です。(霧島市の公営企業会計:水道事業、工業用水道事業、病院事業、下水道事業、温泉供給) (経営健全化基準:20%)

※早期(経営)健全化基準を超えた場合、法に定める計画を作って改善していくことが求められます。

◎主な指数など(決算統計・健全化法)

指 数 等	平成29年度	平成28年度
1 財政力指数	0.54	0.54
2 経常収支比率	88.8%	87.3%
3 実質赤字比率	-%	-%
4 連結実質赤字比率	-%	-%
5 実質公債費比率	8.1%	8.8%
6 将来負担比率	-%	-%
7 資金不足比率	-%	-%

※「-」の表記は、赤字額、将来負担比率、資金不足額がないため、記載すべき比率がないことを表します。

